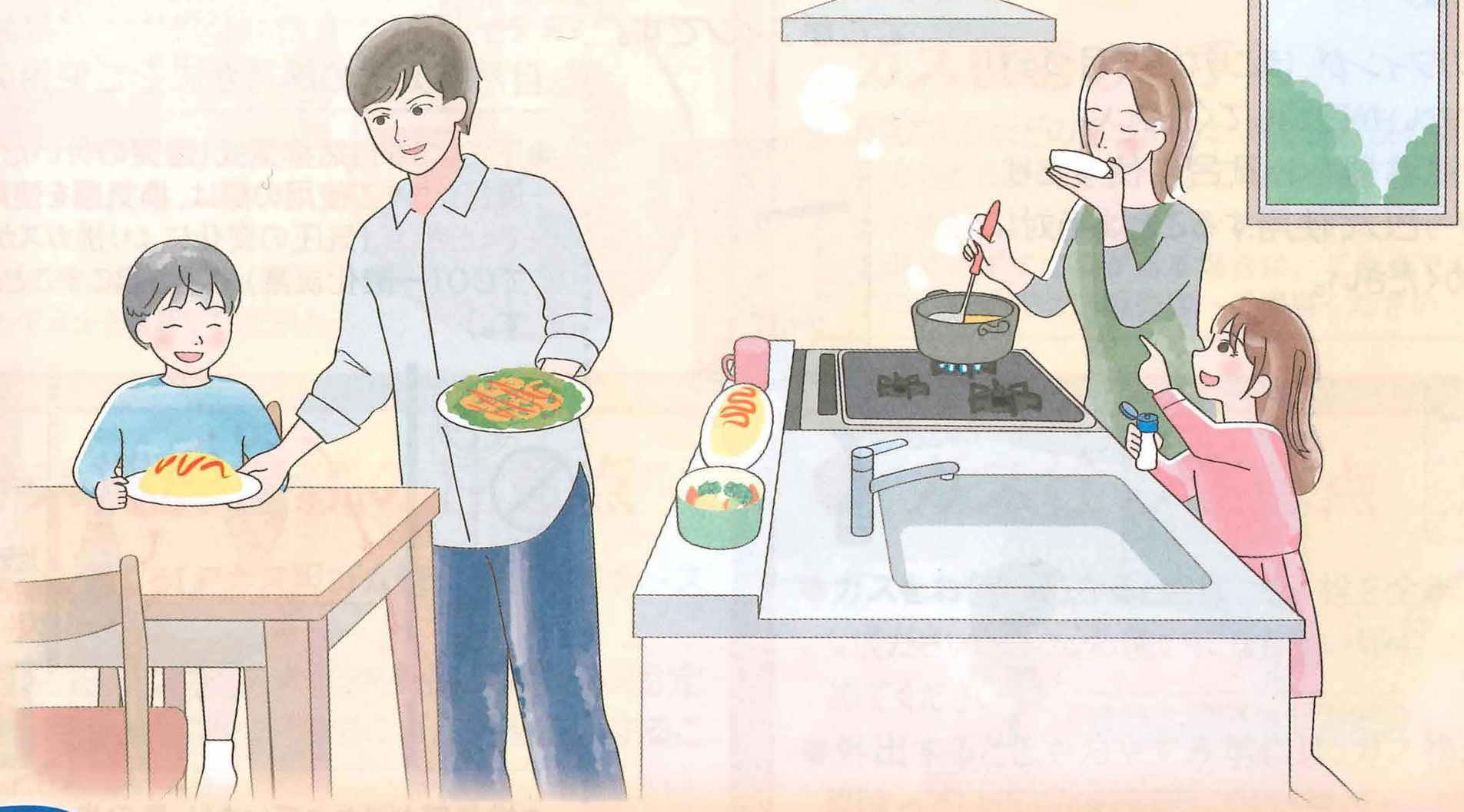
LPガス 家庭用周知文書

知って安心
クリーンエネルギー

LPガスをご家庭でお使いになるお客さまへ



LPガス
人と地球にスマイルを
10月10日はLPガスの日

ご家族の皆さまでお読みください。

このパンフレットは液化石油ガス法にもとづき、ご家庭にお届けするものです。

●店名

●住所

●電話

●緊急時の連絡先

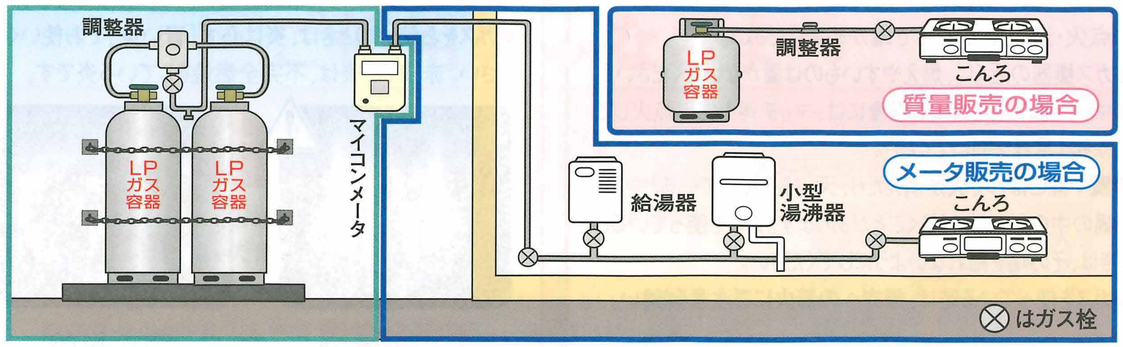
武陽液化ガス株式会社

東京都羽村市五ノ神4丁目14番1号
電　　話　042(578)1900㈹
夜間電話　042(552)0156

一般社団法人 東京都LPガス協会

LPガスを安心・快適に、お使いいただくために。

日頃お使いになるガス機器の安全管理は、ご自身で責任を持って行ってください。



LPガス販売店が行う安全管理 ← 供給設備

お客さまが行う安全管理 → 消費設備

供給設備とは

容器からマイコンメータまでは、供給設備と呼ばれ、この部分はLPガス販売店が責任をもって安全管理します。

消費設備とは

マイコンメータの出口からガス機器まで（メータのない場合は容器からガス機器まで）は**消費設備**と呼ばれ、法律上の管理責任はお客さまにあります。

安全・安心のための点検・調査にご協力ください。

皆さまの安全・安心のため、LPガス販売店または販売店から依頼を受けた保安機関が、法律（液化石油ガス法）にもとづき、次のような点検・調査を行います。

① 容器交換のつど
LPガス容器・調整器・容器バルブ・ガス供給管などの外観点検。

② 1年に1回以上
地下室等の配管からのガスもれ調査など。

③ 原則として4年に1回以上
調整器の機能点検、配管のガスもれ調査、ガス機器や給排気設備等の調査など、ガス設備全般についての点検・調査。

※点検・調査の結果、指摘があった設備については、法律上、改善の必要があります。

LPガスの性質

❶ 空気よりも重い

LPガスは空気よりも重いため、もしガスがもれたら、特に下の方の風通しを良くしてガスを屋外に追い出しましょう。

❷ ニオイをつけてある

LPガスそのものは無色無臭ですが、もれたときに分かるようにガス特有の臭い（異臭）をつけてあります。

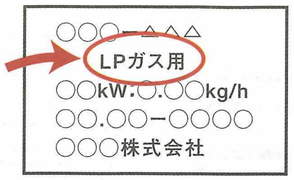
❸ 燃焼には空気が必要

LPガスが燃焼するためには空気（酸素）が必要です。室内でガスを使用するときは、十分に換気をしてください。換気が不十分な場合は、不完全燃焼を起こしCO（一酸化炭素）が発生しますので十分注意してください。

ガス機器をご使用の際はご確認ください。

- LPガスには、必ずLPガス用ガス機器をご使用ください。
  都市ガス用ガス機器は使用できません。
- ガス機器は、取扱説明書をよく読んでから、正しくご使用ください。

新しくガス機器をご使用の際には、LPガス専用のガス機器であることを確認してください。



製造会社の銘板例

※LPガス用ガス機器には上のような表示があります。

ガス機器には寿命があります。10年たったら点検・取替えを！

小型容器の取扱いについて

- 容器が倒れないよう、平らな場所に置いてください。
- 直射日光や火気を避けてご使用ください。
- 使用後は、必ず容器バルブを閉めてください。
- 容器は、火の気のない風通しの良い所に保管してください。
- 不要になった容器は、必ずLPガス販売店に返却してください。

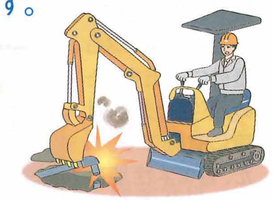
小型容器

こんなときはLPガス販売店にご連絡ください。

（連絡先は表紙に記載）

- ガス設備の工事や新しくガス機器を取り付けるとき、または取りはずすとき。
- 新築・改装・転居などで、新しくLPガスを使うとき、またはやめるとき。
- ストーブなどの季節的機器で、取り付け・取りはずしが困難なとき。
- 長期間使用していないガス機器を使用するとき。
- 台風・洪水等の災害で容器やLPガス設備が浸水したとき。
- 容器が転倒したとき。

※配管、風呂がま、湯沸器、煙突などにかかる工事を行うときは、法律上の資格が必要です。
※風呂がまや湯沸器の中には給気口や排気設備が必要な機種があります。



- ガス以外の工事（リフォーム、住宅塗装工事、水道工事など）によるガス管損傷の事故が起きています。
  ガス以外の工事を行うときには必ずLPガス販売店にご連絡ください。

LPガスを正しく使って、いつも安心。

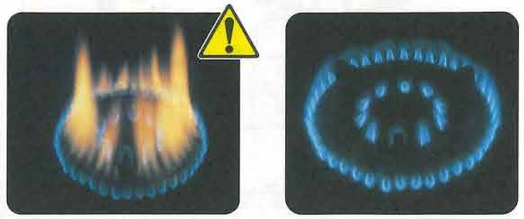
● 料理時の注意点

- 点火・消火は必ず目で確かめてください。
- ガス機器の近くに、燃えやすいものは置かないでください。
- マッチ等にて点火する場合には、マッチ等を先に点火してから器具栓を開いてください。
- 風や煮こぼれで火が消えたり、天ぷらを揚げているときに、鍋の中の油に火が着くことがあります。ガスを使っているときは、その場を離れないようにしてください。
- ガスを使っている時は、着衣への着火にご注意ください。

※やむを得ずその場を離れる場合は、火を消して安全を確認してください。

● 燃焼確認の注意点

- ガスをお使いのときは、炎は必ず「青い炎」でお使いください。赤っぽい炎は、不完全燃焼をしている炎です。



不完全燃焼（酸素不足）　完全燃焼

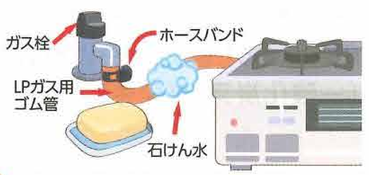
ガス機器のお手入れ

ガスこんろなどの目づまりは、不完全燃焼の原因となります。ときどき器具ブラシなどで掃除をしてください。

ガス機器（こんろなど）のお手入れなどで、ネジなどを取りはずす必要がある場合は、ご自身でお手入れせずに、必ずLPガス販売店へご連絡ください。

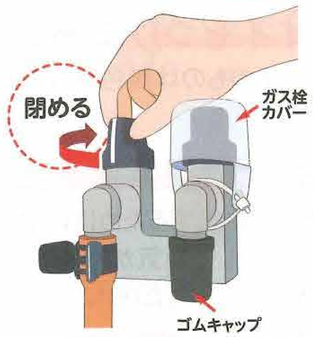
● ガス機器接続の注意点

- ガス栓に適合するLPガス用ゴム管または専用ホースを使用してください。
- ガスもれ防止のため、湯沸器や風呂がまなどの固定式のガス機器とガス栓の接続にゴム管を使用することは禁止されています。
- ゴム管は、過度に長いものを使用しないでください。
- ゴム管は、ガス栓の赤い線のところまで差し込んで、ホースバンドでしっかりとめてください。
- ゴム管は、物かげを通したり、折り曲げたりしないでください。
- 三つ又は危険なので、絶対に使用しないでください。
- ゴム管はときどき点検し、ひび割れや焼け焦げなどの発生しているゴム管は使用しないでください。ゴム管からのガス漏れの点検は、石けん水を塗り泡が出るかで分かります。（泡が出た場合は、すぐに新しいゴム管に取替えてください。）点検後はきれいに拭き取ってください。



● ガス栓の注意点

- ガスをお使いになるときは、ガス栓を全開にしてお使いください。また、お使いにならない場合は、完全に閉めてください。
- 外出するときやおやすみ前には、ガス栓、器具栓が閉まっていることを確認してください。
- 配管やガス栓をアースの代わりに使用しないでください。
- ガス機器（こんろなど）に接続されていないガス栓は、絶対に開けないでください。
  （ガス栓カバーやゴムキャップの装着が有効です）

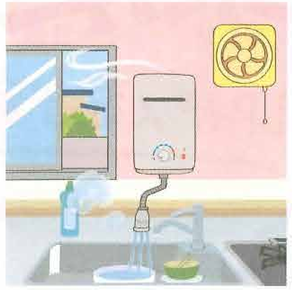


小型湯沸器やガスストーブ等をご使用のみなさまへ

⚠ 必ず換気（給気と排気）してください。

※CO（一酸化炭素）は無色無臭で極めて毒性が強いです。
※過去に換気不足等によりCO（一酸化炭素）中毒を起こし、死に至った事故事例があります。

- 室内でガス機器を使用するときは、換気扇を回したり、ときどき窓を開けて十分に換気をしてください。（冷暖房中にも忘れずに。）



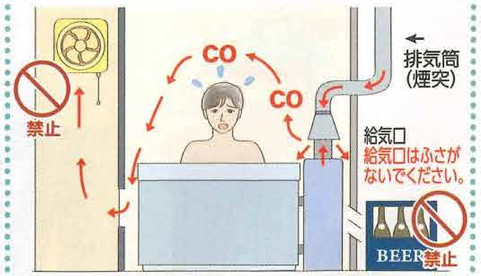
※ガスの燃焼には、空気を必要とします。換気が十分に行われないと、酸素不足により不完全燃焼を起こし、有害なCO（一酸化炭素）が発生する恐れがあるため、たいへん危険です。
※点火時やご使用中に火が消える場合は、安全装置が作動している可能性がありますので、再点火は行わないで、直ちに使用を中止し、ガス機器の購入先やLPガス販売店または保安機関（緊急時の連絡先）にご連絡ください。（連絡先は表紙に記載）

- 排気のフィンが、ほこりなどで目づまりしていないか確認してください。
- 小型湯沸器をお風呂に使ったり、シャワーとして使用することは絶対におやめください。

ここがフィンです。

自然排気式の風呂がまをご使用の方に

- 下のような自然排気式（煙突の付いたもの）の風呂がまをご使用の際は、換気扇を使用しないでください。（気圧の変化により排ガスが逆流してCO（一酸化炭素）中毒を起こすことがあります。）



- 排気筒がこわれていたり、鳥の巣などでふさがれてしまうと適切な排気ができなくなります。こまめに点検しましょう。

ご要望により、CO点検を実施いたします。なお、CO点検で異常があったガス機器は、直ちに交換してください。不完全燃焼防止機能が付いていない又は老朽化したガス機器は、早めに交換してください。

⚠ ガス警報器のご使用にあたって

- 警報器が適正な位置に設置されているかを確認しましょう。
- 警報器の電源プラグは常時コンセントに差し込んでおきましょう。特にガス警報器が鳴った場合には原因が不明のままコンセントを抜かないでください。
- 警報器の周りに物を置かないようにしましょう。
- 警報器が交換期限内のものかを確認しましょう。

※共同住宅、学校、病院などの人が多く集まる施設、地下室等に燃焼機器が設置されている場合には、原則として法律によりガス警報器（LPガス用）の設置が義務付けられています。

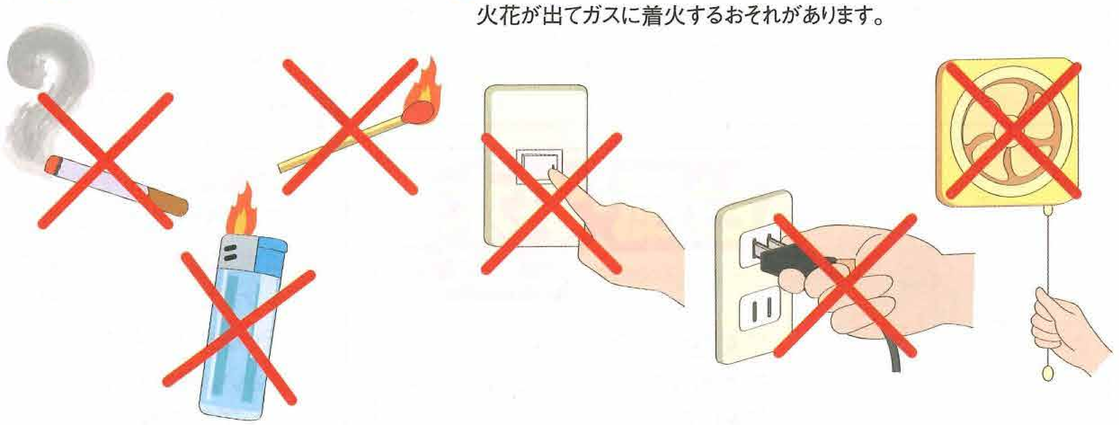
もしもガスがもれたら!!

「ガスのニオイに気づいたら」「ガス警報器が鳴ったら」

＜火気は絶対使用しないで＞

●室内の火は全部消してください。

●コンセントやスイッチに触れないでください。
火花が出てガスに着火するおそれがあります。



＜ガスを外に追い出して＞

●戸や窓を
大きく開けてください。

※LPガスは空気より重いため、
低いところにたまりますので
ご注意ください。

●すべてのガス栓、
器具栓を閉めてください。

●容器バルブも
閉めてください。

＜LPガス販売店または保安機関（緊急時の連絡先）に連絡してください。＞

●連絡の際は氏名・住所・状況などをお知らせください。

●LPガス販売店または保安機関の点検を受けるまでガスを使わないでください。

※万が一、LPガスによる災害が発生した場合にも連絡してください。

**連絡先は
表紙に記載**

いつも安心の安全機器や安全装置付きガス機器をおすすめします。

マイコンメータ

ガスもれなどガスの流れや圧力などに異常があった場合、マイコンメータが自動的にガスを遮断します。

※マイコンメータには、ガスを使用中に大きな地震（震度5相当以上）があった場合には、ガスを止めるなどの保安機能が搭載されています。

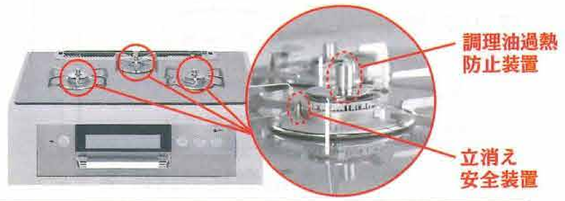
Siセンサーコンロ

すべてのバーナーに安全センサー（立消え安全装置・調理油過熱防止装置・消し忘れ消火機能）を搭載したガスこんろです。

◆立消え安全装置は、煮こぼれや吹きこぼれ、強風などで火が消えた時、自動的にガスを止めます。

◆調理油過熱防止装置は、センサーが鍋底の温度を感知し、約250℃になると自動的に消火して油の発火を防ぎます。

◆消し忘れ消火機能は、消し忘れても、点火後一定時間が経過した時点で自動消火します。



集中監視システム

お客さまのLPガスの利用状況を24時間365日休みなく見守り、異常を感知したら適切な措置（販売店等から連絡が入るなど）を行うシステムです。

ガス警報器

ガスもれをすばやく感知し、
ブザーや音声で知らせます。

CO（一酸化炭素）中毒事故防止に有効です。

CO（一酸化炭素）警報器

不完全燃焼で発生したCO（一酸化炭素）を感知し、ブザーや音声で知らせます。

不完全燃焼防止装置付き小型湯沸器

不完全燃焼が発生した場合、ガスを自動的に止めます。

※不完全燃焼防止装置の付いていない小型湯沸器は、不完全燃焼によるCO（一酸化炭素）中毒事故が発生する可能性がありますので早めに交換してください。

屋外設置式の給湯器

屋外の空気を使って燃焼し、排ガスも屋外に排出するため、不完全燃焼対策に有効です。また、省エネ性能にも優れています。

ガス警報器に住宅用火災・CO（一酸化炭素）警報器を加えたものはより安全です。

ガス警報器＋住宅用火災・CO警報器

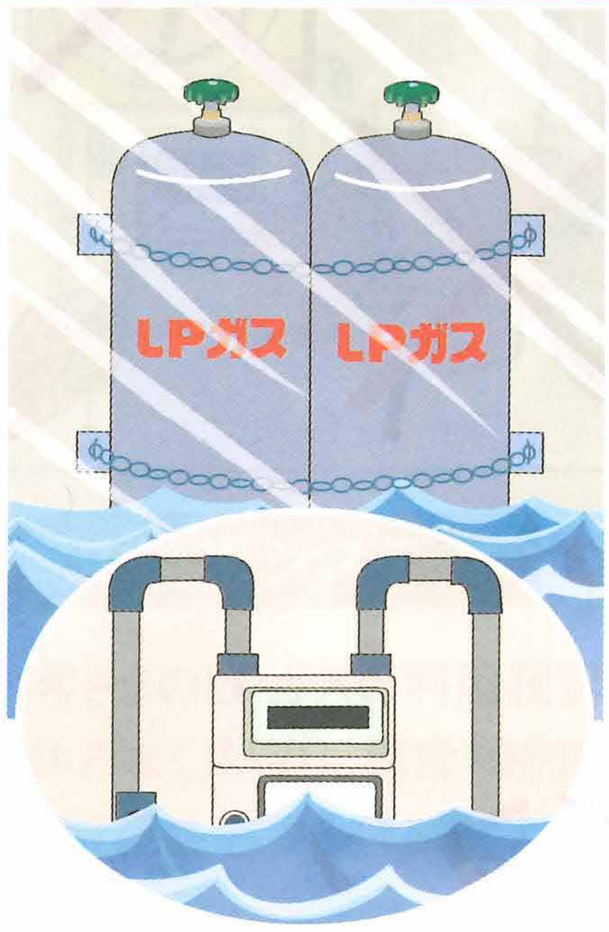
ガスもれ・火災・CO（一酸化炭素）を感知し、
ブザーや音声で知らせします。

災害時の対策は…

自分の身を守りましょう

地震のときは

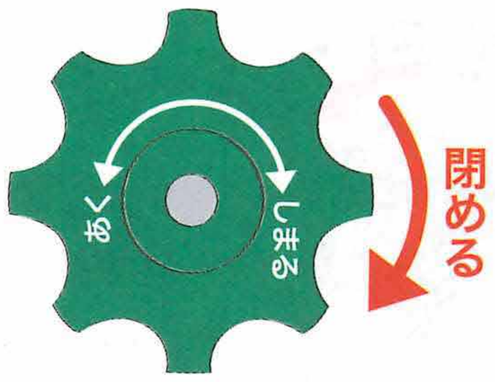
揺れがおさまってから、ガス栓・器具栓を閉め(火をすべて消し)、揺れが大きかった時は、屋外の容器バルブも閉めてください。



台風・洪水に備えて

ご家庭の容器にぐらつき等の不安がある場合は販売事業者に連絡をしてください。
容器やLPガス設備が浸水した場合や容器が転倒などした場合はLPガス販売店または保安機関にお知らせください。

容器バルブ



容器バルブの閉め方

避難するときはガス栓を閉め、容器バルブを閉めましょう。容器バルブを閉めるときは、時計と同じ右に回すと閉まります。

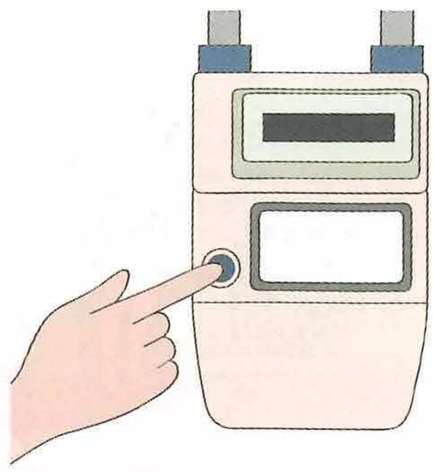
※再びガスをお使いになる際は、必ずLPガス販売店または保安機関の点検を受けてからお使いください。

マイコンメータの復帰方法

復帰ボタンを押してすぐ離す。そして、約1分間待つ。

器具栓をすべて閉めて、使っていないガス栓が閉まっていることを確認して復帰ボタンを押してください。赤いランプと液晶が点滅します。ガスもれがないかマイコンメータが安全確認を行いますので約1分間お待ちください。異常がなければ、赤いランプの点滅と液晶の文字が消えます。これで復帰が完了となりますので、開栓してお使いください。
(復帰しない場合は、復帰を繰り返さずLPガス販売店にご連絡し、点検を受けてください。)

※ボタンにキャップのあるタイプもあります。



特に雪の多い地方の対策

●雪おろし
雪おろしの際は、ガス設備に損傷を与えないように十分注意してください。

●雪囲いや容器収納庫の設置
雪により容器が埋まったり、屋根からの落雪や雪おろし等で調整器や配管、メータなどがこわれるおそれがあるため、雪囲いや容器収納庫を設置してください。また、雪囲いや容器収納庫の周りは除雪してください。

●排気筒(煙突)の補強
排気筒(煙突)は丈夫な支柱で補強してください。

本周知文書の一部及び全部を複写・転載・引用等を禁じます。